

夏目漱石 朗読会

プログラム

嘉手納町立図書館では読書週間の一環といたしまして、秋の朗読会を行うことになりました。今年は夏目漱石の没後100年ということもあり、テーマを夏目漱石にしております。

夏目漱石は日本文学に大きな影響を与えた作家です。それまでは書き言葉の文語調だったもの(森鷗外の『舞姫』や、尾崎紅葉の『金色夜叉』など)を口語で小説を書きました。文体への影響はもちろんのこと、読み継がれるだけあって今なお物語も面白い！ 没後100年経っても色あせない漱石文学の魅力を朗読でお楽しみください。

1. 開会
2. 「吾輩は猫である」
3. 「坊ちゃん」
4. 「夢十夜」
5. 閉会

アンケートの回答も
よろしくお願ひします



吾輩は猫である

吾輩は猫である。名前はまだ無い。主人は英語の先生をしている。家の者は大変な勉強家だと思っているが、彼はよく昼寝をしている。黒や三毛子など猫の仲間たちに囲まれている。吾輩は主人の家族や門下生を見ながら、人間を風刺したり思想にふけったりする。

ユーモアあふれる中編小説を絵本で紹介します。

夢十夜

第一夜:死ぬ間際の女は私に向かい「百年、墓のそばに待っていてください。また会いに来ますから」と頼む。真珠貝で穴を掘り、墓を作った私は女を待っていた。

第三夜:青田路の中、盲目の子供を背負っている。見透かしたように大人びた口調で話す子供が気味悪くなった。どこかへ捨ててしまおうかと森の中へ歩いていく。

夏目漱石朗読会



写真: 国立国会図書館「近代日本人の肖像」より

日時 平成 28 年 11 月 12 日(土) 午後 2 時~3 時

場所 嘉手納町立図書館 よみきかせ広場

演目 「夢十夜」「坊ちゃん」など

嘉手納町立図書館:957-2470

